

# 日本結核病学会東海支部学会

## —— 第133回総会演説抄録 ——

2019年6月8・9日 於 名古屋大学医学部基礎研究棟（名古屋市）

（第115回日本呼吸器学会東海地方学会  
第18回日本サルコイドーシス/肉芽腫  
性疾患学会中部支部会 と合同開催）

会 長 近 藤 征 史（藤田医科大学呼吸器内科学Ⅰ）

### —— 一 般 演 題 ——

**1. Nivolumabによる免疫性血小板減少性紫斑病が疑われた非小細胞肺癌の1例** °森 秀法（羽島市民病呼吸器内）今井 一・渡邊康司・下條 隆・大角幸男（同循環器内）

脳転移を伴う非小細胞肺癌（NOS）と診断した77歳男性。CBDCA+nab-PTX 6kurr PD後、TPS>90%を確認、2nd lineとしてNivolumab投与開始。Day 2より免疫反応による発熱とCRPの上昇を認めた。発熱以外の症状は認めず、全身状態安定後、day 15に突然Gr4の血小板減少、点状出血、血痰、血便を認めた。血小板輸血無効、正形成の骨髓像、血小板関連IgG著明高値より免疫性血小板減少性紫斑病と診断した。PSL 60 mg/day投与により血小板数は回復した。原発巣は縮小した。骨髓抑制の頻度は<1%と少ないが、重篤な血液毒性に対する注意が必要である。

**2. 突然死をきたしたIntrathoracic Chronic Expanding Hematomaの1例** °木村隼大・矢口大三・井上徳子・高橋光太・志津匡人・佐々木由美子・今井直幸・市川元司（岐阜県立多治見病呼吸器内）

Chronic Expanding Hematoma（CEH）は慢性的に増大する血腫で稀な疾患であるが、致死の合併症に関して知っておく必要がある。今回われわれは、CEHの指摘を受けているか不明の健康な89歳男性が、来院時心肺停止で、胸部CTで巨大腫瘍を認めるも死因が同定できず、病理解剖により、巨大腫瘍はCEHと判明し、その血腫内に新鮮出血を併発して気管支内腔に穿破したことにより窒息に至り、突然死したと診断できた症例を経験したので報告する。胸部画像で片肺の胸郭全体を占めるような巨大腫瘍性病変を認めた場合には、CEHの可能性を想起すると共に、CEHは自然経過中に突然死を呈しうることを知っておくべきである。

**3. 皮膚筋炎の入院治療中に発症し急速な肺病変の増大を認めた若年者結核の1例** °藤田浩平・中尾心人・荒川総介・酒井祐輔・鈴木悠斗・佐藤英文・村松秀樹（JA愛知厚生連海南病呼吸器内）渡辺綾野・佐々木謙成（同膠原病内）

症例は38歳男性。発熱、皮疹にて当院紹介受診され、皮膚筋炎の診断で入院した。ステロイド治療や免疫抑制剤治療を行っていたが、途中右肺下葉に約2 cm大の結節影が出現し、1週間後には約6 cm大の腫瘍影にまで急速に増大した。同病変に対して気管支鏡検査を行い肺結核と診断した。本症例では免疫抑制治療開始前のIGRAは陰性であり、潜在性結核感染症治療は行っていなかった。教訓的な症例と考え、若干の文献的考察を加え報告する。

**4. 幹細胞移植後に皮膚病変を伴ったM. abscessusの1例** °高橋光太・林 信行・日比野佳孝・浅野俊明（江南厚生病呼吸器内）福島庸晃（同血液腫瘍内）

48歳女性。急性骨髄性白血病に対し末梢血幹細胞移植を受けPSL使用中だった。X日より労作時呼吸困難感悪化し、胸部CTで気管支炎所見が認められた。喀痰抗酸菌塗抹G8号でX+7日にM. abscessusが培養陽性となった。X+30日頃から右膝関節痛と右上腕に紅斑が出現し慢性GVHD症状と考えられたが、その後皮膚科診察を受け右肘の生検培養検体よりM. abscessusが検出された。AMK+CAM+IPM/CSでの入院治療を開始し呼吸器症状と皮膚所見は改善した。現在FRPM+CAMで寛解を維持している。

**5. 当院における結核治療としてのLVFXの検討** °豊嶋弘一・坂部茂俊（伊勢赤十字病感染症内）

〔緒言〕肺結核、肺外結核を治療するにあたり、薬剤耐性の問題、副作用などにて代替薬としてLVFXを使用することがある。わが国においても、2015年にLVFXが適

応追加承認された。一方で一般細菌のLVFXの耐性化は進んでおり、AMRアクションプランでもLVFXの乱用を防止するため、具体的な目標を掲げている。〔方法〕2012年1月1日～12月31日と2018年1月1日～12月31日の2つの期間において*S.pneumoniae*, *E.coli*など代表的な一般細菌のLVFXに対する感受性率の変化と2012年1月1日～2018年12月31日の期間における結核菌群

に対するLVFX感受性率の比較検討を行った。〔結果〕*S.pneumoniae*のLVFX感受性率は98.6%から92.3%, *E.coli*は67.9%から62.7%といずれも低下していたが、結核菌群に関しては100%と良好な感受性率を保っていた。〔結語〕結核治療歴や外国生まれなど薬剤耐性の可能性が考えられる際にはLVFXは有効な治療薬としての選択肢になりうる。